2026 年 5 月 14 日

各　位

会社名　株式会社 CINC
代表者名　代表取締役社長　石松 友典
（コード番号：東証グロース　4378）
問合せ先　経理財務部長　森田 栄一
（TEL：03-6822-3601）

# Keywordmap にて「AI フレンドリー診断（β 版）」の提供開始のお知らせ

当社が開発・提供する SEO ツール「Keywordmap（キーワードマップ）」にて、Web ページが生成 AI（LLM）にとって理解しやすい構造であるかを多角的に診断する新機能「AI フレンドリー診断（β 版）」提供を開始しましたことをお知らせいたします。

詳細につきましては、添付のプレスリリースをご参照ください。

以　上

# AEO 対策を支援する新機能「AI フレンドリー診断（β 版）」を Keywordmap がリリース！GEO/LLMO におけるコンテンツ制作で「何をすべきか」が一目瞭然のツールに進化
## ～AI 検索での露出を最大化。ページの「見つけやすさ」と「理解しやすさ」を自動診断～

株式会社 CINC（本社：東京都港区、代表取締役社長：石松友典、以下 CINC）は、自社で開発・提供する SEO・AI 検索最適化（GEO/LLMO）ツール「Keywordmap（キーワードマップ）」において、Web ページが生成 AI（LLM）にとって理解しやすい構造であるかを多角的に診断する新機能「AI フレンドリー診断（β 版）」をリリースいたしました。
ChatGPT や Google の AI Overviews といった生成 AI による情報探索が普及する中、企業には検索エンジンだけでなく「AI に選ばれるための最適化（AEO 対策＝Answer Engine Optimization：回答エンジン最適化）」が求められています。本機能は、特定の URL を入力するだけで、対象ページの AI のクローラビリティ（見つけやすさ）とビジビリティ（理解のしやすさ）を自動で診断。専門知識が必要なテクニカルな項目から、AI が好む文章構造までを一気通貫で可視化、担当者が「何をすべきか」まで提案し、AI 検索時代における「選ばれるブランド」への転換を強力に支援します。




---

**新機能「AI フレンドリー診断（β 版）」とは？**
「AI フレンドリー診断（β 版）」は、自社または競合の Web ページ URL を入力するだけで、そのページが生成 AI の「回答リソース（参照元）」として適しているかを精密に診断する機能です。
生成 AI が情報を取得・処理するプロセスに沿って、「AI ボットがページを発見できるか」「取得した情報を正しく構造化して理解できるか」という 2 つの側面から数十項目に及ぶチェックを瞬時に実行。最新の AI 検索最適化（GEO/LLMO）コンサルティングを提供する CINC の知見に基づいて、具体的な改善アクションを提案します。もう AI 検索対策で何をすべきか迷うことはありません。

---

**AI 検索最適化（GEO/LLMO）において「何をすべきか」という高い壁：開発背景**

デジタルマーケティングの主戦場は、従来の検索エンジンから、生成 AI（LLM）や AI 検索へと急速に広がりつつあります。企業にとって AI 検索最適化（GEO/LLMO）、あるいは AI 回答に焦点を当てた AEO 対策は急務の課題となっている一方で、現場の担当者は以下の 2 つの大きな壁に直面しています。

1. **診断・分析の難易度の高さ：** AI 検索のアルゴリズムは複雑であり、ページが「AI にとってフレンドリーかどうか」を判断する基準が一般には不透明である。専門家ではない企業の担当者にとって難易度は高い。
2. **膨大なチェック工数：** ページのテクニカルな設定からコンテンツの構造（チャンク構造など）まで、確認すべき項目が多岐にわたり、手動ですべてを調査するには膨大な時間と専門知識を要する。

市場には「サイト引用数やサービス/ブランド言及数といった AI 検索の結果をモニタリングする」ツールは増えているものの、具体的に「ページをどう改善すべきか」を提示できるソリューションは極めて少ないのが現状です。Keywordmap は、数多くの企業へ AI 検索最適化コンサルティングを提供してきた CINC のノウハウをシステム化することで、これらの課題を解消すべく本機能の開発に至りました。

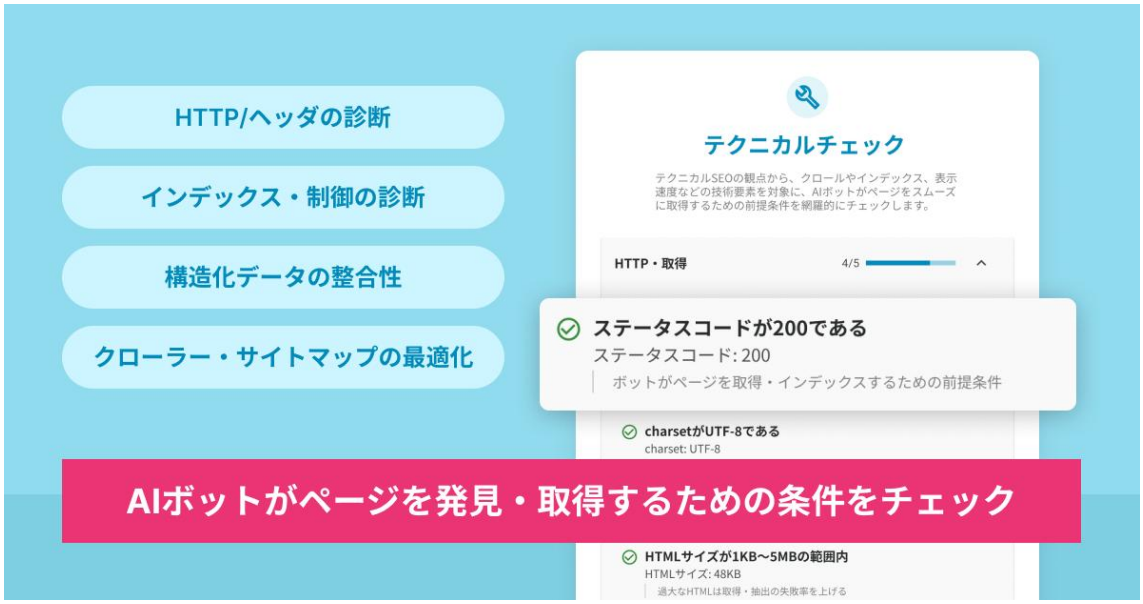
---

**AI フレンドリー診断（β 版）の機能：2 つの軸で「AI への伝わりやすさ」を可視化**

本機能は、大きく分けて「テクニカル」と「コンテンツ構造」の 2 つの観点からページを診断します。

**1. ページのテクニカルチェック（クローラビリティ・インデックスの診断）**

AI ボットがページをスムーズに発見・取得するための前提条件を網羅的にチェックします。多岐にわたるチェック項目の一部を紹介します。

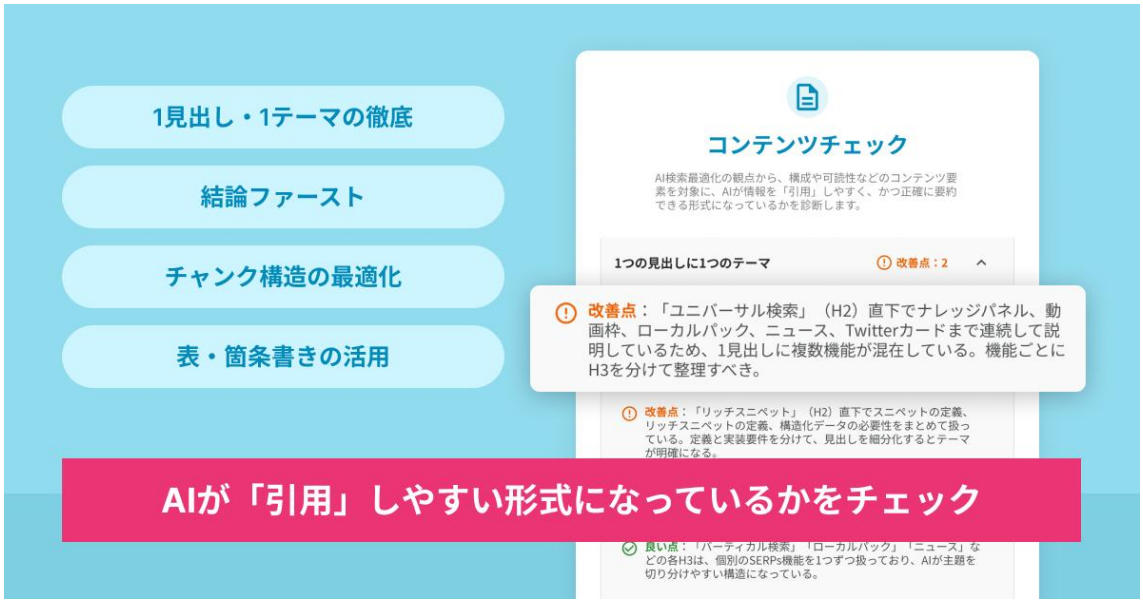



- **HTTP/ヘッダの診断**
  ステータスコード 200 の返却、HTML サイズが適切か、AI ボットが最新情報を検知するための「Last-Modified」の設定有無などを確認。
- **インデックス・制御の診断**
  noindex 設定によるボット拒否の有無や、正確な canonical（正規化 URL）の設定状況を診断。
- **構造化データの整合性**
  JSON-LD 形式での実装有無や、schema 検証エラーのチェック。組織情報（Organization）やパンくずリスト（BreadcrumbList）が設定されているか、またそれらを AI が正しく読み取れるかを確認。
- **クローラー・サイトマップの最適化**
  robots.txt による AI ボットのブロック有無や、サイトマップ（XML）への URL 掲載状況を診

断。

**2. コンテンツの AI フレンドリーチェック（理解しやすさ・ビジビリティの診断）**

AI が情報を「引用」しやすく、かつ正確に要約できる形式になっているかを診断します。コンテンツ制作時の参考にできるチェック項目は以下です。




- **1 見出し・1 テーマの徹底**
  1 つのブロックに複数のテーマが混在していないかをチェック。AI による情報の意味判定を助けます。
- **結論ファースト**
  見出し直後の文章にトピックを端的に述べるエッセンス（いわゆる結論ファースト）が含まれているかを確認。AI が重要情報を特定する際の重み付けに対応します。また結論ファーストでまとめられたコンテンツは、AI だけでなくユーザーにとっても読みやすく理解しやすい傾向にあります。
- **チャンク構造の最適化**
  ページ全体が、AI が処理しやすい適切な分量の情報の塊（チャンク）に切り分けられているかを診断。結論ファーストと同じく、チャンクごとまとめられているコンテンツは、ユーザーに理解しやすい傾向にあります。
- **表・箇条書きの活用**
  データの対応関係や並列関係を AI が瞬時に理解できる形式になっているかをチェックします。

---

**AI フレンドリー診断（β 版）の活用イメージ**

- **SEO 担当者・Web マーケター**
  すでに検索エンジンなどのチャネルで成果が出ている記事ページの URL を入力し、AI 検索でも引用されるための改善ポイントを特定。AEO 対策にあわせてリライトの優先順位を明確にします。
- **コンテンツライター・記事執筆者**
  制作したコンテンツが、検索エンジンだけでなく最新の AI 検索にも最適化されているかを公開前にセルフチェックすることで、品質の属人性を排除し、再現性のあるコンテンツ制作が可能になります。
- **デジタルマーケティング責任者**
  サイト全体の「AI フレンドリー度」を把握し、AI 検索最適化へのリソース配分をデータに基づいて決定します。

**AI フレンドリー診断（β 版）機能を使う価値・ベネフィット**

AI フレンドリー診断（β 版）は、AEO 対策における次のような価値・ベネフィットを提供することで、今後の Web マーケティングの主戦場となる AI 検索最適化を支援します。

- AEO 対策における「迷い」の排除と工数削減
- AI 回答の「一次ソース」として選ばれる確率の向上
- ブランド毀損リスクの低減と信頼性の担保

**AEO 対策における「迷い」の排除と工数削減**

「AI 検索対策のために何をすればいいかわからない」という状態から、具体的な改善アクションが示される状態へと導きます。手動で行っていた複雑かつ専門的な確認作業（AI フレンドリーのためのテクニカルチェック）を自動化し、瞬時に詳細なレポートを取得できるため、分析工数を大幅に削減し、コンテンツの制作や改善といった施策実行に時間を割くことが可能になります。

**AI 回答に引用されやすくなる**

AI が情報を「発見しやすく、理解しやすい」状態に整えることで、ChatGPT や AI Overviews などの回答内で引用元として選ばれる可能性を高めます。これは、AI 検索時代における新たな流入経路の確保に直結します。

**ブランド毀損リスクの低減と信頼性の担保**

AI に正しく情報を伝えて、正しく理解してもらうことで、AI による誤情報生成（ハルシネーション）を未然に防ぎ、自社の意図した正確な情報がユーザーに届くようになります。不正確な要約によるブランドイメージの低下を防いで、検索体験における信頼性を構築します。

Keywordmap（キーワードマップ）について

膨大な数の検索結果、自社・競合・他あらゆる Web サイト、リスティング広告のデータをもとに、競合調査・キーワード選定・AI ライティング・効果計測など、SEO・コンテンツマーケティングを支援する機能を備えたツールです。2016 年のリリース後、業種・業界、事業規模を問わず、Web 集客を推進する幅広い企業様にご活用いただいています。

URL：https://keywordmap.jp/

**■Keywordmap の受賞歴**




Keywordmap は法人向けの IT 製品・クラウドサービスのレビューと資料比較ができる国内最大級のプラットフォーム『ITreview』において、毎年発表される Best Software in Japan を 2 年連続受賞しております（2025 年度：58 位、2024 年度：41 位）。




また、SaaS 比較サイト『BOXIL』においても、Good Sevice を受賞し、あわせてお役立ち度、機能満足度の両部門で No.1 を獲得するなど、多くの方々から高い評価をいただいております。

**■ 関連メディア「Keywordmap ACADEMY」**
デジタルマーケティングの基礎知識・最新情報が学べるメディアです。
URL：https://keywordmap.jp/academy/

＜ツール・サービスに関するお問い合わせ先＞
株式会社 CINC　Keywordmap 事務局
mail：km_cs@cinc-j.co.jp

【会社概要】
「マーケティングソリューションで、日本を代表する企業へ。」をビジョンに掲げ、ビッグデータの活用を強みとしたWebマーケティングのツール開発からマーケティングコンサルティングを展開しています。独自のデータ収集技術、AI・機械学習技術と、データ解析の知見を基に、誰もが・短時間で・簡単に・高度なビッグデータ解析ができるツールの開発・提供、プロフェッショナルが戦略立案から実行支援まで一気通貫で伴走するマーケティングコンサルティングの提供を通じて、クライアントのビジネスの成長に貢献します。

会社名：株式会社CINC（シンク）（東証グロース 証券コード：4378）
代表者：代表取締役社長　石松友典
設立：2014年4月
本社：東京都港区虎ノ門1丁目21-19 東急虎ノ門ビル6階
事業内容：
（1）ソリューション事業
（2）アナリティクス事業
（3）M&A仲介事業（株式会社CINC Capital）
会社ホームページ：https://www.cinc-j.co.jp
採用情報：https://www.cinc-j.co.jp/recruit/
運営メディア「Marketing Native」：https://marketingnative.jp/
Tech Blog：https://cincdevteam.hatenablog.com/